阿波女翔る ○特別編○

連載登場者がパネル討論

徳島新聞の連載企画「阿波女翔（かけ）る」に登場した女性によるパネルディスカッション「阿波女翔る！こんな職場なら、仕事も子育ても自己実現もできる！」（県労働者福祉協議会主催）が23日夜、徳島市のふれあい健康館で開かれた。女性ならではの苦労や仕事への向き合い方、育児との両立などについて意見が交わされ、約80人が耳を傾けた。

女性が安心して働くために

支え合う社会不可欠

仕事・子育て語り合う

パネリストは、藍原理津子さん（ネオビエント社長）佐藤あすかさん（佐藤デザイン工房代表）立川富子さん（大塚製薬診断事業部管理部長兼薬事課長）南智子さん（桶幸ウチダ造花取締役部長）山田久美子さん（高橋ふとん店店舗事業部上席部長）の5人。県社会保険労務士会の米澤和美副会長がコーディネーターを務めた。

■仕事と自己実現

「お元気さまです」。会社で定着しているあいさつで話し始めた山田さん。何か一番になれるものを持てとの上司の言葉を心に刻み、「いつも誰にも負けないくらいの笑顔でいようと決めて仕事してきた」と振り返った。

立川さんはキャリアアップのため、妊娠中に資格試験の勉強に取り組んだ経験に触れ「頑張ったら自分もできるという自信がついた」。約70人の社員を率いる藍原さんは「自分には子どもはいないが、社員を子どもと思い育てていくという思いで取り組んでいる」と、仕事に対する思いを語った。

■仕事と育児の両立

2人の子どもを持つ佐藤さんは「好きな仕事が思い切りできず、心からかわいいと思えなかった時期もあった」と、思い悩んだ経験を吐露。先輩ママの助言を受け「できないことはできないと割り切り、子どもとの時間を大切にすることで気持ちが軽くなった」と語った。

「仕事が終わったら閉園直前の保育園に駆け込んでいた」と、育児時代のエピソードを披露した南さん。「子どもの面倒を見てくれた義母ら周囲の支えのおかげで両立ができた」と感謝の気持ちを口にした。立川さんも「同じ境遇の先輩が身近にいて相談できたことが大きかった」。子育てを経験したパネリスト全員が「無理はせず人に頼る」ことが両立のこつと話し、周囲や社会のサポートの重要性を強調した。

■子育てしやすい職場環境とは

山田さんは、子どもの成長段階に合わせて勤務時間を変えてもらったといい「柔軟な会社の対応のおかげで子育てできた」と力説した。一方、個人事業主の佐藤さんは、夫の会社が育児に協力的で早退などのサポートを得られたと紹介しながら「夫側の職場も理解を深める必要がある」と述べた。

南さんと藍原さんは、経営者の視点から「悩みや変化に気づけるように小まめに声掛けすることが大切」「相談し合える組織づくりを」などと提言。藍原さんは「女性が活躍できないと経済は低下する。彼女らの働きやすい環境を整えることが、良質な人材の獲得にもつながる」と締めくくった。

（乾栄里子）

育児との両立がしやすい職場環境などについて意見を交わすパネリスト＝徳島市のふれあい健康館